

第8回

プラチナ大賞

報告書



プラチナ大賞とは

「プラチナ大賞」の目的

未来のあるべき社会像として描く「プラチナ社会」は、成熟社会における成長の一つのモデルであり、日本が先進国として直面する課題の解決と、新たな可能性の創造によってもたらされる、豊かで快適でプラチナのように威厳を持って光り輝く社会です。

「プラチナ大賞」は、この「プラチナ社会」のモデルを示すことを目的として2013年に第1回が開催され、今回で第8回目を迎えました。

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、または体現しようとしている全国の自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、これらをプラチナ社会のモデルとして広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」の実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・浸透を図るものです。

「プラチナ社会」とは

人口減少、急激に高齢化する社会、地球温暖化等、課題先進国である我々日本がおかれている現状において、老朽化していく都市インフラ、活力を失う地方の市街地、荒廃する農地、財政を圧迫する社会保障全般、人材養成の困難とその海外流出、新たな負担となった地球環境への対応など、さまざまな課題が生じています。

これらの課題は物質的な豊かさを達成した先進国ならではのものであり、これらをわが国が「課題先進国」としていち早く乗り越えることは、一方で新たな社会システムの構築、新しいビジネスの創造に繋がる、大いなる可能性に満ちた挑戦であるとも言えます。私たちは「課題解決先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義し、その必要条件は以下の通りであると考えます。

- ・ **エコロジー**で（人間にとって快適な自然環境の再構築、環境との調和・共存）
- ・ **資源の心配がなく**（エネルギー効率の向上、自然エネルギー活用、物質循環システムの構築）
- ・ **老若男女が全員参加**し（生涯を通じた成長、社会参加の機会創造、健康で安心して加齢できる社会）
- ・ **心もモノも豊かで**（文化・芸術に彩られた暮らし、飽和・停滞を打破する「限界を超えた成長」）
- ・ **雇用がある社会**（イノベーションによる新産業の創出）

「プラチナ社会」の姿は、このような条件を備えたうえで地域ごとの個性的様相を帯びるものであり、その実現のためには各地域独自の自立的かつチャレンジングな取り組みが重要となります。

第8回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式

日時 2020年10月22日(木) 13:15～17:35

会場 イイノホール&カンファレンスセンター

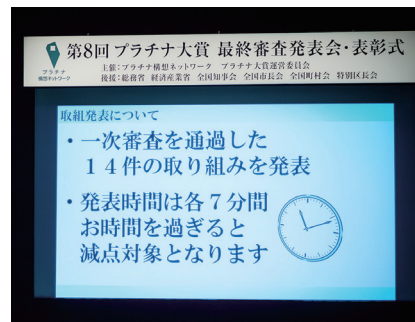
主催 プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）

プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）

後援 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

第8回 プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 フォトレポート

会場 イイノホール&カンファレンスセンター



開会挨拶



プラチナ構想ネットワーク 会長
小宮山 宏

運営委員長挨拶



運営委員長
増田 寛也

審査委員長挨拶



審査委員長
武内 和彦

来賓挨拶



総務大臣政務官
古川 康 氏



経済産業大臣政務官
佐藤 啓 氏

最終審査発表会（発表順）



神奈川県
神奈川県知事 黒岩 祐治 氏



都城市（宮崎県）
総合政策部 総合政策課 副主幹
佐藤 泰格 氏



リモート発表

小豆島・迷路のまちアートプロジェクト
MeiPAM 小豆島・迷路のまち妖怪
プロジェクト実行委員会
小豆島ヘルシーランド株式会社
小豆島・迷路のまちアートプロジェクト
MeiPAM 代表 佐藤 秀司 氏



和歌山県
和歌山県立博物館 主任学芸員
大河内 智之 氏



株式会社T-ICU
代表取締役社長／医師
中西 智之 氏



高浜市（愛知県）
高浜市こども未来部 部長 木村 忠好 氏（写真左）
たかはま夢・未来塾 卒塾生 杉浦 光 氏（写真右）



川崎市（神奈川県）
川崎臨海部水素ネットワーク
協議会
川崎市市長 福田 紀彦 氏



大成建設株式会社
環境本部 部長 御器谷 良一 氏（写真左）
環境本部 主任 豊村 裕 氏（写真右）



株式会社HIROTSUバイオサイエンス
取締役／海外事業推進室 室長
山口 慶剛 氏



Global Mobility Service株式会社
特別会員 関根秀昭氏
Global Mobility Service株式会社
代表取締役 社長執行役員／CEO
中島 徳至 氏



東急株式会社
町田市（東京都）
東急電鉄株式会社
東急株式会社 常務執行役員
高橋 俊之 氏



埼玉県
福祉部 少子化対策局長
細野 正 氏

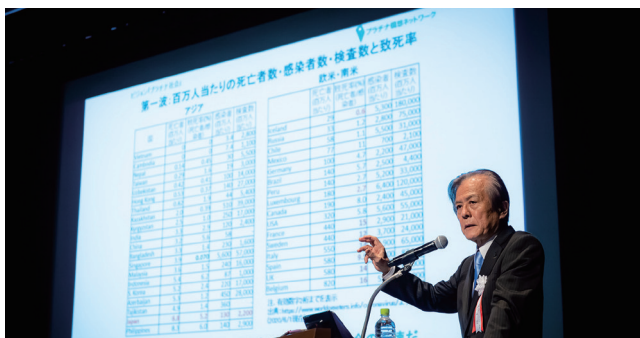


国立研究開発法人農業・食品産業技術
総合研究機構 地方独立行政法人北海
道立総合研究機構 きたみらい農業協同
組合 十勝農業協同組合連合会
国立研究開発法人農業・食品産業
技術総合研究機構 理事
勝田 眞澄 氏



上士幌町（北海道）
株式会社生涯活躍のまち かみしほろ
株式会社Karch
上士幌町長 竹中 貢 氏

特別講演「ポストコロナとプラチナ社会」



プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏

「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告



徳島県美波町 [第6回ライフデザイン賞]
美波町長 影治 信良 氏 (リモート発表)

最終審査会



表彰式



大賞・総務大臣賞
神奈川県



大賞・経済産業大臣賞
Global Mobility Service 株式会社
特別会員 関根秀昭氏

講評

閉会挨拶



審査委員長 武内 和彦



幹事長 岩沙 弘道



優秀賞 ライフデザイン賞



優秀賞 地域再生賞



優秀賞 きらり活動賞



優秀賞 e-ヘルス賞



優秀賞 地域人材育成賞



優秀賞 次世代社会づくり賞



優秀賞 環境配慮賞



優秀賞 チャレンジング賞



優秀賞 新しい時代のまちづくり賞



優秀賞 インクルーシブ賞



優秀賞 技術革新賞



優秀賞 統合的地域づくり賞



はじめに

「プラチナ大賞」は、イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの取り組みを賞という形で称え、それらを「プラチナ社会」のモデルとして紹介することにより、更なる広がりにつなげることを目的に、2013年より毎年開催しております。

これまでに、「大賞・総務大臣賞」は島根県海士町（第1回）、ヤマトホールディングス株式会社（第2回）、石川県珠洲市（第3回）、島根県雲南市（第4回）、新潟県見附市（第5回）、兵庫県養父市（第6回）、弘前大学 大学院医学研究科 特任教授 中路重之氏・青森県・弘前市（第7回）が受賞し、「大賞・経済産業大臣賞」を福岡県北九州市（第2回）、積水ハウス株式会社（第3回）、コマツ（第4回）、株式会社伊藤園（第5回）、株式会社シェルター（第6回）、株式会社リクルート・和歌山県有田市（第7回）が受賞しております。

この上記13の取り組みを含む計76の取り組みに対して、「大賞・総務大臣賞」「大賞・経済産業大臣賞」「優秀賞」「審査委員特別賞」および「プラチナ・イノベーション賞」を授与してまいりました。

今回の「第8回プラチナ大賞」では、会員団体から58件の応募が寄せられ、第一次審査において選出された14の取り組みについて、2020年10月22日開催「第8回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式」において最終プレゼンテーションを行っていただきました。その後実施された厳正なる最終審査の結果、神奈川県「新型コロナウイルス対策に係る『LINE コロナお知らせシステム』『新型コロナ対策パーソナルサポート（行政）』『感染防止対策取組書』等を組み合わせた仕組について」が「大賞・総務大臣賞」を、Global Mobility Service 株式会社・特別会員 関根秀昭氏の「日本発 世界の貧困層・低所得層17億人を救う金融包摂型 FinTech サービス」が「大賞・経済産業大臣賞」を受賞し、他12の取り組みが優秀賞を受賞されました。

ご後援をいただいております総務省・経済産業省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・特別区長会、その他多くの当会関係団体・ご関係者・当会会員団体の皆様にはご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

また、ご応募いただきました各団体の皆様方には、日頃の熱意とご努力に改めて敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

「第8回プラチナ大賞」の開催内容を「最終審査発表会・表彰式」の内容を中心に報告書にまとめました。本書が皆様にとって「プラチナ社会」実現への更なるご理解の深化、あるいは今後の当会活動へのご参画や次回以降の「プラチナ大賞」へのご応募の契機となれば幸甚です。

今後とも、当会の活動に対する、ますますのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

プラチナ大賞運営委員会事務局
(プラチナ構想ネットワーク事務局)

目次

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 開会挨拶 | |
| プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 | 3 |
| 運営委員長挨拶 | |
| プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也 | 3 |
| 審査委員長挨拶 | |
| プラチナ大賞 審査委員長 武内 和彦 | 4 |
| 来賓挨拶 | |
| 総務大臣政務官 古川 康 氏 | 5 |
| 経済産業大臣政務官 佐藤 啓 氏 | 6 |
| 第8回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要 | |
| 実施体制 | 7 |
| プログラム概要 | 8 |
| 最終審査発表会選出団体 | 9 |
| 受賞団体 | 10 |
| プラチナシティ認定制度 | 13 |
| 副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について | 14 |
| 最終審査発表会選出団体のプレゼンテーション | |
| 神奈川県…16 / Global Mobility Service 株式会社、特別会員 関根秀昭氏…17 / 都城市…18 / 小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM、小豆島・迷路のまち 妖怪プロジェクト実行委員会、小豆島ヘルシーランド株式会社…19 / 和歌山県…20 / 株式会社 T-ICU…21 / 高浜市…22 / 川崎市、川崎臨海部水素ネットワーク協議会…23 / 大成建設株式会社…24 / 株式会社 HIROTSU バイオサイエンス…25 / 東急株式会社、町田市、 東急電鉄株式会社…26 / 埼玉県…27 / 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、 地方独立行政法人北海道立総合研究機構、きたみらい農業協同組合、十勝農業協同組合 連合会…28 / 上土幌町、株式会社生涯活躍のまち かみしほろ、株式会社 Karch…29 | |
| 特別講演「ポストコロナとプラチナ社会」 | |
| プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏 | 30 |
| 「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告 | |
| 徳島県美波町 [第6回 ライフデザイン賞] 美波町長 影治 信良 氏 | 31 |
| 審査委員長 講評 | |
| プラチナ大賞 審査委員長 武内 和彦 | 33 |
| 閉会挨拶 | |
| プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道 | 34 |
| 【資料編】 | |
| 応募団体の全体概要 | 36 |
| 主なメディアの掲載一覧 | 37 |

開会挨拶

プラチナ構想ネットワーク
会長

小宮山 宏



本日はお忙しい中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。先ほど会員総会が終わり、プラチナ構想ネットワークは設立10年を迎えることができました。設立3年目から、このプラチナ大賞を開催しており、今回で8回目になります。新型コロナウイルスの影響で、今年の開催を大変心配しておりましたが、昨年よりも8件も多い58件のご応募をいただきました。本当に皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。また、少しずつではありますが、プラチナ大賞が認知されてきたという実感を得てございます。

この会場は500名が入るホールですが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から来場者を

130名に絞っております。最終審査まで残った発表者の方々、審査委員、総務省、経済産業省、それと報道の方等、可能な限り少ない人数に絞らせていただきました。一方で、一人でも多くの方に観ていただけるよう、今年はオンラインで配信するという試みでございませう。多分、去年よりもたくさんの方に視聴いただけることと思ひます。

プラチナ構想ネットワークでは、イブニングセミナーなどをオンラインで行ってきまひました。リアルとオンラインを同時にやると、これまでイブニングセミナーはリアルでは50～60名が集まっていたましたが、オンラインでは200名くらいの方が参加するとうような状況になっています。リアルとオンラインのハイブリッドを上手に使うことで、これまで以上にうまくいくうような感じも受けております。

今回のプラチナ大賞は、ハイブリッド型で多くの方がご視聴になっていることを実感しながら、リアルでもオンラインでも一緒に発表を楽しみたいと思ひております。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

運営委員長挨拶

プラチナ大賞
運営委員長

増田 寛也



本日は会場、そしてオンラインで、大勢の皆様方にご覧いただひており、誠にありがとうございます。

このプラチナ大賞は今回第8回目ということになります。最初の1回目から5回目までは、まずプラチナの理念、考え方を定着させることとうことだったのですが、6回を過ぎてから、色々な試みをどのように横に広げていくのか、社会実装にどれだけ取り組んでいけるのか。この辺りも審

査の中で重要なポイントとして、考えてきています。

58件の応募がござひましたが、かういうコロナ禍の中でありながら、多数のご応募をいただけたこと、特に当初に比べると、民間からの応募も大変増えてきておりますので、プラチナ大賞としても、持続可能な非常にいい形になってきたのではないかと考えております。

小宮山会長が唱えているプラチナ社会の要素は、エコであり、資源の心配がなく、老若男女全員参加、心も物も豊かで、さらには雇用につながる。これは地域にとっても大変重要な要素でありますので、かうした考え方がしっかりと根付くように、これからもずっと続けていきたいと思ひております。そのためにも、ぜひご支援を賜りたいと思ひます。本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

審査委員長挨拶

プラチナ大賞
審査委員長

武内 和彦



今年から審査委員長にご指名をいただきました武内です。

私から、今年の一つの大きな特徴を申し上げますと、多様な取り組みが提案されているということだと思います。海外を含むグローバルな取り組みも今回は候補の中に入っておりまして、このプラチナ社会を、できれば日本だけでなく、世界に広げる取り組みにしていくことも良いのではと思っております。そういう意味でも、今回、多様な取り組みについて、皆様方の発表を大変楽しみにしております。

小宮山会長には、プラチナ社会とは何かということをご教訓いただいておりますが、重要な目標の一つに持続可能な社会があります。

これは環境、経済、それから社会、これらの統合的な向上を目指すこと。もう一つは、少子高齢化も含めた、これからの新しい健康な社会づくり、これを融合させるというところに非常に大きな特徴があると思います。まさに、コロナ禍において、われわれが今、一番求められているのは、地球の健康と、それから人々の健康をいかに融合させた地域づくりをしていくのか。そういう視点で、日本の社会が引き続き活力を持って、人々がイキイキと生きていける社会につなげていく。そのための一助になればと思っております。

これから審査する立場ではありますが、皆様方の発表を楽しみにしてこの場に参加しております。

後ほど、発表を踏まえて審査結果を報告させていただきますけれども、最初のこの段階で申し上げておきたいことは、この14の取り組み、それぞれが非常に興味深い中身を持っているということです。皆様方と一緒に、この発表を拝見できることを楽しみにしております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

来賓挨拶

総務大臣政務官

古川 康 氏



第8回のプラチナ大賞の最終審査発表会・表彰式、誠におめでとうございます。このプラチナ構想ネットワークの皆様方によって、約10年前からスタートした、「課題先進国」である我が国を素晴らしい解決策の先進国にしていくという発想のもとで、お取り組みが年々盛んになってきていることを本当にうれしく思います。今年はまだ新たなコロナの時代という局面を迎えましたが、こういう時代になってこそ、このプラチナ構想が目指す一人一人が環境のことに思いを寄せつつ、持続可能な社会を創っていく。そういったことの大切さが、多くの人達によって共有されるようになったことを感じています。

私事になりますが、私はこの仕事の前に、佐賀県で知事を務めておりました。小宮山会長から、プラチナ構想をやりたいんだとお話を伺っ

たのが、2010年のことでした。その当時のメンバーで、何回も集まり、どういう構想にしていくのか、そして地域にはそういう種があるのか、花開く余地はあるのか、そういった話をしたことを、昨日のことに覚えているところでございます。まさしくプラチナというものが、たくさんの原石の中でのごくごく貴重なものから見いだされるように、日本国内にある、様々な取り組みの中で、次の時代になっても色褪せることのない、素晴らしい取り組みをこのようにして見つけだすことができていることを、本当にうれしく思うところでございます。まさに、総務省が進めている、人と人とが繋がっていく、そういう社会を実現することにも相通ずるものがあると思っているところでございます。

本日も皆様方のお力によりまして、素晴らしい表彰式になることと思います。願わくば、今回大賞を取られることになる取り組みだけでなく、様々な素晴らしい試みが、この日本国中に広がっていくことによって、ウェルビーイングと申しますか、幸せが日本国中に広がっていくことを心からご期待申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

経済産業大臣政務官

佐藤 啓 氏



本日は第8回プラチナ大賞の最終審査発表会・表彰式が、盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、小宮山会長、増田運営委員長、武内審査委員長をはじめ、開催にご尽力された関係者の皆様方に心より敬意を表します。

人口減少や少子高齢化など、地域は様々な課題に直面をしております。また新型コロナウイルス感染症の拡大や、国際情勢の変化などにより、足元の経済は大変厳しい状況が続いております。こうした状況にあって、地域の実情に応じた、革新的なビジネスモデルの構築を通じて、地域の様々な課題を解決し、未来のあるべき社会を目指す、プラチナ大賞の精神は、地域

の持続的自律的な発展に向けた取り組みを大いに後押しするものでございます。

本日最終審査に臨まれた皆様の、地域活性化に向けたご尽力に敬意を表するとともに、地域経済活性化のモデルとして、今後益々のご発展、ご成長をされることを大いに期待しております。

経済産業省といたしましても、地域経済の活性化と持続的な成長の実現に向けて、地域の経済をけん引する企業や事業を後押ししてまいります。経済産業省が、地域経済の中心的な担い手として選定している、地域未来牽引企業には、このコロナ禍にあっても、地域の皆様と連携し、前向きな取り組みを行っている企業がおります。今後も、地域の課題を解決し、活力をもたらすような事業や企業の後押しを行い、本日お集まりの皆様とともに、地域の経済活性化に貢献してまいります。

結びに、本日お集まりの皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し挨拶とさせていただきます。本日は誠に、おめでとうございます。

| 第8回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式 概要

実施体制

- [主催] プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山 宏）
プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田 寛也）
- [後援] 総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会
- [事務局] プラチナ大賞運営委員会事務局（プラチナ構想ネットワーク事務局）

運営委員会

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 委員長 | 増田 寛也 | 東京大学公共政策大学院 客員教授 |
| 副委員長 | 秋山 弘子 | 東京大学 名誉教授、東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授 |
| 委員 | 平石 和昭 | プラチナ構想ネットワーク事務局長 |

審査委員会

| | | |
|------|-------|---------------------------------|
| 委員長 | 武内 和彦 | 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 理事長 |
| 副委員長 | 秋山 弘子 | 東京大学 名誉教授、東京大学未来ビジョン研究センター 客員教授 |
| 委員 | 石戸奈々子 | 一般社団法人超教育協会 理事長、慶應義塾大学 教授 |
| 委員 | 岸本 一郎 | 株式会社フジテレビジョン 専務取締役 |
| 委員 | 西條 都夫 | 株式会社日本経済新聞社 上級論説委員兼編集委員 |
| 委員 | 田中 里沙 | 事業構想大学院大学 学長 |
| 委員 | 月尾 嘉男 | 東京大学 名誉教授 |
| 委員 | 西村 幸夫 | 國學院大學新学部設置準備室長・教授 |
| 委員 | 増田 寛也 | 東京大学公共政策大学院 客員教授 |
| 委員 | 山田メユミ | 株式会社アイスタイル 取締役 |

プログラム概要

- 13:15 **開会挨拶**
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 13:20 **運営委員長挨拶**
プラチナ大賞 運営委員長 増田 寛也
- 13:25 **審査委員長挨拶**
プラチナ大賞 審査委員長 武内 和彦
- 13:30 **最終審査発表会（プレゼンテーション）**
神奈川県／都城市／小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM、小豆島・迷路のまち妖怪プロジェクト実行委員会、小豆島ヘルシーランド株式会社／和歌山県／株式会社 T-ICU／高浜市／川崎市、川崎臨海部水素ネットワーク協議会／大成建設株式会社／株式会社 HIROTSU バイオサイエンス／Global Mobility Service 株式会社、特別会員 関根秀昭氏／東急株式会社、町田市、東急電鉄株式会社／埼玉県／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、きたみらい農業協同組合、十勝農業協同組合連合会／上土幌町、株式会社生涯活躍のまち かみしほろ、株式会社 Karch（発表順）
- 15:45 **特別講演「ポストコロナとプラチナ社会」**
プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏
- 16:05 **「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告** [同時間、並行して最終審査会を開催]
徳島県美波町 [第6回 ライフデザイン賞]
美波町長 影治 信良 氏
- 16:40 **来賓ご挨拶**
総務大臣政務官 古川 康 氏
経済産業大臣政務官 佐藤 啓 氏
- 16:50 **審査結果発表／表彰式**
- 17:25 **審査講評**
プラチナ大賞 審査委員長 武内 和彦
- 17:30 **閉会挨拶**
プラチナ構想ネットワーク 幹事長 岩沙 弘道

最終審査発表会選出団体（発表順）

| 団体名 | 発表者 | タイトル |
|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 神奈川県 | 神奈川県知事 黒岩 祐治 氏 | 新型コロナウイルス対策に係る「LINE コロナお知らせシステム」「新型コロナ対策パーソナルサポート（行政）」「感染防止対策取組書」等を組み合わせた仕組について |
| 都城市（宮崎県） | 総合政策部 総合政策課 副主幹 佐藤 泰格 氏 | 高齢化社会を支えるおくやみフルサポート事業 |
| 小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM 小豆島・迷路のまち妖怪 プロジェクト実行委員会 小豆島ヘルシーランド株式会社 | 小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM 代表 佐藤 秀司 氏 (リモート発表) | 妖怪美術館と折り鶴アートによる古民家再生で「迷路のまち」を“まち磨き” ～オリーブの恵みから新たな 観光資源創出で持続可能な地域創生へ～ |
| 和歌山県 | 和歌山県立博物館 主任学芸員 大河内 智之 氏 | 高校生・大学生と創る「お身代わり仏像」Project ～未来に伝える 和歌山の文化財～ |
| 株式会社 T-ICU | 代表取締役社長／医師 中西 智之 氏 | 情報通信を用いた遠隔 ICU による診療支援 |
| 高浜市（愛知県） | 高浜市こども未来部 部長 木村 忠好 氏 たかはま夢・未来塾 卒業生 杉浦 光 氏 | たかはま夢・未来塾事業 |
| 川崎市（神奈川県） 川崎臨海部水素ネットワーク 協議会 | 川崎市市長 福田 紀彦 氏 | 水素社会の実現に向けた川崎水素戦略 ～川崎が水素で世界を変える～ |
| 大成建設株式会社 | 環境本部 部長 御器谷 良一 氏 環境本部 主任 豊村 裕 氏 | 日本の明るい未来をつくるために、建設業界における 先進的な取り組み ～『先進的環境配慮型作業所』『環 境配慮型施工』『働き方改革』の標準化を目指して～ |
| 株式会社 HIROTSU バイオサイエンス | 取締役／海外事業推進室 室長 山口 慶剛 氏 | 地球規模のプラチナ社会を実現する 「生物×医療」による世界初のイノベーション 線虫がん検査『N-NOSE®』 |
| Global Mobility Service 株式会社 特別会員 関根秀昭氏 | Global Mobility Service株式会社 代表取締役 社長執行役員／CEO 中島 徳至 氏 | 日本発 世界の貧困層・低所得層 17 億人を救う 金融包摂型 FinTech サービス |
| 東急株式会社 町田市（東京都） 東急電鉄株式会社 | 東急株式会社 常務執行役員 高橋 俊之 氏 | 南町田グランベリーパーク ～官民連携による“暮らしのグリーンインフラ”の創出～ |
| 埼玉県 | 福祉部 少子化対策局長 細野 正 氏 | 「埼玉県方式」による子供の居場所拡大 |
| 国立研究開発法人農業・食品産業技術 総合研究機構 地方独立行政法人北海 道立総合研究機構 きたみらい農業協 同組合 十勝農業協同組合連合会 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 理事 勝田 眞澄 氏 | 冬の寒さを利用して 人と環境に優しい持続可能な農業を実現 |
| 上士幌町（北海道） 株式会社生涯活躍のまち かみしほろ 株式会社 Karch | 上士幌町長 竹中 貢 氏 | 「だれもが生涯活躍・環境と調和したビジネス展開」 プロジェクト ～イノベーションでスマートタウンを目指すまち かみしほろ～ |

※各団体のプレゼンテーション資料は後日、プラチナ構想ネットワークのホームページ上に掲載いたします。

また、当日のプレゼンテーション映像は、プラチナ TV (<https://www.youtube.com/channel/UCQpn3wF-nDdeR4vF7RAojyA>) にて順次掲載いたします。

受賞団体

2020年10月22日13時30分から最終審査会が開催され、最終審査発表会に進出した14団体のプレゼンテーションに基づいて、各賞受賞団体が決定しました。審査委員会の総意により、大賞は2つの取り組みに授与することとし、それぞれ表彰を行いました。

大賞・総務大臣賞

団体名 神奈川県
取り組み名 新型コロナウイルス対策に係る
「LINE コロナお知らせシステム」
「新型コロナ対策パーソナルサポート(行政)」
「感染防止対策取組書」等を組み合わせた
仕組について



大賞・経済産業大臣賞

団体名 Global Mobility Service 株式会社
特別会員 関根秀昭氏
取り組み名 日本発 世界の貧困層・低所得層 17 億人を
救う金融包摂型 FinTech サービス



優秀賞 ライフデザイン賞

団体名 都城市 (宮崎県)
取り組み名 高齢化社会を支えるおくやみフルサポート事業



優秀賞 地域再生賞

団体名 小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM
小豆島・迷路のまち妖怪プロジェクト実行委員会
小豆島ヘルシーランド株式会社
取り組み名 妖怪美術館と折り鶴アートによる古民家再生で
「迷路のまち」を“まち磨き”
～オリーブの恵みから新たな観光資源創出で
持続可能な地域創生へ～



優秀賞 きらり活動賞

団体名 和歌山県
 取り組み名 高校生・大学生と創る「お身代わり仏像」Project
 ～未来に伝える 和歌山の文化財～



優秀賞 e-ヘルス賞

団体名 株式会社 T-ICU
 取り組み名 情報通信を用いた遠隔 ICU による診療支援



優秀賞 地域人財育成賞

団体名 高浜市 (愛知県)
 取り組み名 たかはま夢・未来塾事業



優秀賞 次世代社会づくり賞

団体名 川崎市 (神奈川県)
 川崎臨海部水素ネットワーク協議会
 取り組み名 水素社会の実現に向けた川崎水素戦略
 ～川崎が水素で世界を変える～



優秀賞 環境配慮賞

団体名 大成建設株式会社
 取り組み名 日本の明るい未来をつくるために、
 建設業界における先進的な取り組み
 ～『先進的環境配慮型作業所』『環境配慮型施工』
 『働き方改革』の標準化を目指して～



優秀賞 チャレンジング賞

団体名 株式会社 HIROTSU バイオサイエンス
取り組み名 地球規模のプラチナ社会を実現する
「生物×医療」による世界初のイノベーション
線虫がん検査『N-NOSE®』



優秀賞 新しい時代のまちづくり賞

団体名 東急株式会社
町田市(東京都)
東急電鉄株式会社
取り組み名 南町田グランベリーパーク
～官民連携による“暮らしのグリーンインフラ”の創出～



優秀賞 インクルーシブ賞

団体名 埼玉県
取り組み名 「埼玉県方式」による子供の居場所拡大



優秀賞 技術革新賞

団体名 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
きたみらい農業協同組合
十勝農業協同組合連合会
取り組み名 冬の寒さを利用して
人と環境に優しい持続可能な農業を実現



優秀賞 統合的地域づくり賞

団体名 上士幌町(北海道)
株式会社生涯活躍のまち かみしほろ
株式会社 Karch
取り組み名 「だれもが生涯活躍・環境と調和したビジネス展開」
プロジェクト
～イノベーションでスマートタウンを目指すまち
かみしほろ～



プラチナシティ認定制度

イノベーションによる新産業の創出やアイデアあふれる方策などにより、地域の課題をすでに解決し「プラチナ社会」に向かいつつある、あるいは「プラチナ社会」実現に向けた明確なビジョンや具体的なアクションによる素晴らしい取り組みを始めている自治体が「プラチナシティ」です。

プラチナシティ認定自治体

「プラチナ大賞」において各賞（プラチナ大賞、優秀賞、審査委員特別賞、プラチナ・イノベーション賞、その他今後新設される賞）を受賞した自治体です。



プラチナシティ認定バッジ



54自治体 (2020年)

副賞（津軽金山焼の特製トロフィー）について

各賞受賞団体には、表彰状のほか副賞として津軽金山焼の特製のトロフィーを贈呈しました。



大賞



優秀賞

津軽金山焼は、プラチナ構想ネットワークの特別会員である松宮亮二氏^{まつみやりょうじ}が1985年に青森県五所川原市に立ち上げた窯で、高温で焼きあげる「焼き締め^{やししめ}」の手法による、深みのある独特の風合いで知られています。

松宮氏は地域に根差した陶芸産業として金山焼を一から育ててきたと同時に、国内そして海外からも多くの陶芸家の研修生を招き、世代や地域を超えた陶工の育成と、人材・カルチャーの交流を通じた文化芸術面での地域貢献を行っているほか、最近ではやきものを通じた被災地の復興支援活動にも積極的に取り組んでいます。こうした津軽金山焼の取り組みがプラチナ社会の目指す理念に相通じることから、特別に副賞を制作いただきました。

最終審査発表会選出団体の プレゼンテーション



※各団体のプレゼンテーション資料は後日、プラチナ構想ネットワークのホームページ上に掲載いたします。また、当日のプレゼンテーション映像は、プラチナ TV (<https://www.youtube.com/channel/UCQpn3wF-nDdeR4vF7RAojyA>) にて順次掲載いたします。

新型コロナウイルス対策に係る「LINE コロナお知らせシステム」
「新型コロナ対策パーソナルサポート(行政)」
「感染防止対策取組書」等を組み合わせた仕組について

神奈川県

発表者：神奈川県知事 黒岩 祐治 氏



取り組み概要

新型コロナウイルスから身を守るための行動は、一人ひとりの体調や周囲の状況によっても異なり、世界中で新型コロナウイルスに関するデータが蓄積される中で、対応方針も今後変化していくことを早い段階から予想し、「神奈川県新型コロナウイルス感染症対策サイト」(新型コロナに関する情報をホームページへ提供しPULLで発信するサービス)と、「新型コロナ対策パーソナルサポート(行政)」(LINE公式アカウント(86万人超え)登録しお友達登録すれば県からPUSHで新型コロナに関する情報を発信するサービス)の組合せで、新型コロナウイルス対策に係る有効的・効果的な情報を発信してきた。

加えて、感染者が爆発的に増加し、保健所、医療現場の混乱を避け、新しい生活様式を取り入れて新型コロナウイルスと共存(Withコロナ)が実現できるよう、特に、一つ一つのクラスター(集団感染)を抑制し、爆発的な感染拡大を抑制できる社会的有効的な対策として、「LINE コロナお知らせシステム」「新型コロナ対策パーソナルサポート(行政)」「感染防止対策取組書」等を組み合わせた仕組を導入した。

この全体設計は、以下とおりである。

LINE コロナお知らせシステムの全体設計

各事業所に貼り出した取組書から、利用者による二次元コード読み取り、仮に、その事業所で感染者が発生した場合、保健所が必要と判断の下、「LINE お知らせシステム」の発信システムからメッセージを発信する仕組である。

LINE 公式アカウント「新型コロナ対策パーソナルサポート」の全体設計

LINE を駆使して、発熱・体調・基礎疾患・年齢・郵便番号等を入力し、慶応大学や日本感染症学会に協力頂きながら分析等を実施し、本人の状態に合わせた、適切な回答をフィードバックしたり、コロナに関する質問にAIが自動で回答したりするサービスを提供する仕組である。

新型コロナ対策の困難さは、一人ひとりの環境、置かれた状況、無意識的・意識的モチベーション、社会的・感情的要因等、人間の行動には多くの要素が同時に影響を与えることを理解した上で、新しい生活様式を取り入れて新型コロナウイルスと共存(Withコロナ)すること認識している。

参考図表



大賞・経済産業大臣賞

日本発 世界の貧困層・低所得層 17 億人を救う
金融包摂型 FinTech サービス



Global Mobility Service 株式会社 特別会員 関根秀昭氏

発表者：Global Mobility Service 株式会社 代表取締役 社長執行役員／CEO 中島 徳至 氏

取り組み概要

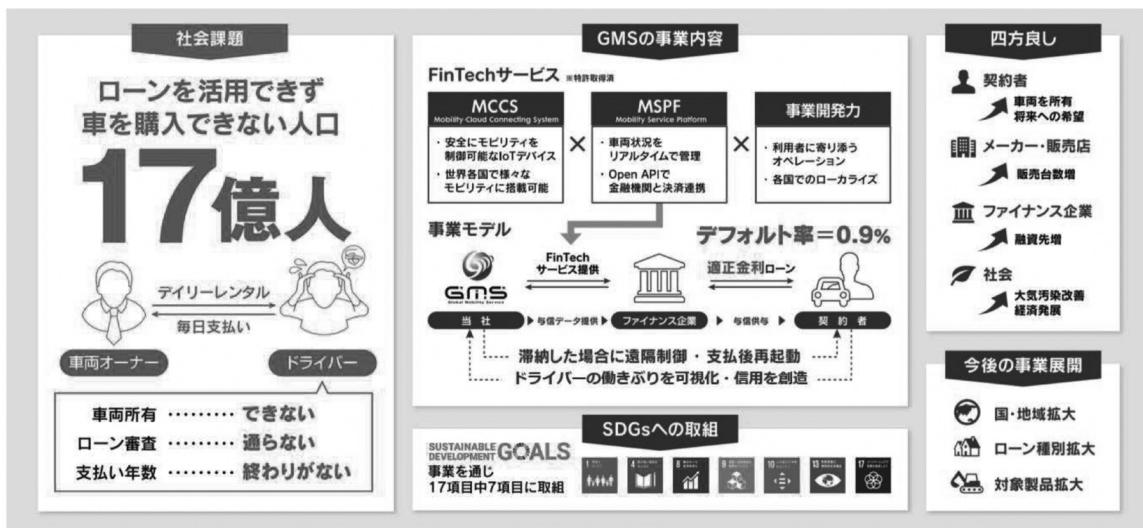
世界にはファイナンスを活用することができない貧困層・低所得層が約 17 億人も存在する。彼らの多くは、モビリティを活用して仕事をしたくとも、信用がないためローンやリースを利用できずモビリティを購入することができない。彼らは車両オーナーに高いレンタル料を支払って車両を手配し、タクシードライバーなどの仕事をしているが終わりのないレンタル料の支払いを続けている。この社会構造では彼らが自力で貧困層・低所得層から抜け出すことは困難である。これまで金融機関や民間企業は「貧困」という社会課題解決に対して、経済合理性がないと判断し、打開策を見出せずにいた。

この状況を打破すべく、当社はモビリティのエンジンの遠隔起動制御を可能にする IoT デバイス「MCCS (Mobility-Cloud Connecting System)」と、モビリティを管理・制御し、クラウド上で Open API を通じた決済システム等の外部システムとの連携を可能し、MCCS からのセンシングデータを分析するプラットフォーム「MSPF (Mobility Service Platform)」を独自に開発した。

この MCCS と MSPF を活用した FinTech サービスを金融機関に提供することにより、真面目に働く意思のある貧困層・低所得層が、自動車ローンやリースを利用できる機会を創出している。MCCS を車両に取り付けることで、万が一、支払いが滞った場合にはエンジンを遠隔で起動制御して支払いを促進することが可能である。また、金融決済システムとも連携しているため、支払い後には直ぐにエンジンを再起動させることが可能である。それによって、デフォルト率は 1% を切る驚異的な水準となっている。さらに、MCCS を通じたセンシングにより取得したデータを MSPF 上で分析し、ドライバーの働きぶりを可視化・価値化することで新たな信用を生み出し、教育ローンなどのファイナンスの機会の創出にも取り組んでいる。

現在当社は、フィリピン、カンボジア、インドネシア、日本で展開しており、当社サービスを利用する車両の総走行距離は 1.5 億 Km (地球約 3,750 周) を超える。累計台数は 1 万台を超え、多くの人々が当社のサービスを通じて貧困から脱出し、豊かな生活を手に入れることを実現している。

参考図表



高齢化社会を支えるおくやみフルサポート事業



都城市 (宮崎県)

発表者：総合政策部 総合政策課 副主幹 佐藤 泰格 氏

取り組み概要

人生の一大イベントである「おくやみ」に着目し、官民連携によりおくやみに向き合っている。

（取組①）マイナンバーカードを活用し手続きの簡素化と一元的な相談を担うおくやみ窓口の設置
大切な方を亡くされたばかりの遺族の精神的・物理的負担を軽減するために、「おくやみ窓口」を設置し、市役所で必要な手続きを特定した上で、必要な申請書に必要な事項等を記入した形で印刷するシステムを、大日本印刷株式会社との実証事業として構築した。申請書類にマイナンバーカードの情報を転記し、効率化を図る機能を実装している。カードを活用した「おくやみ窓口」の設置は日本初である。

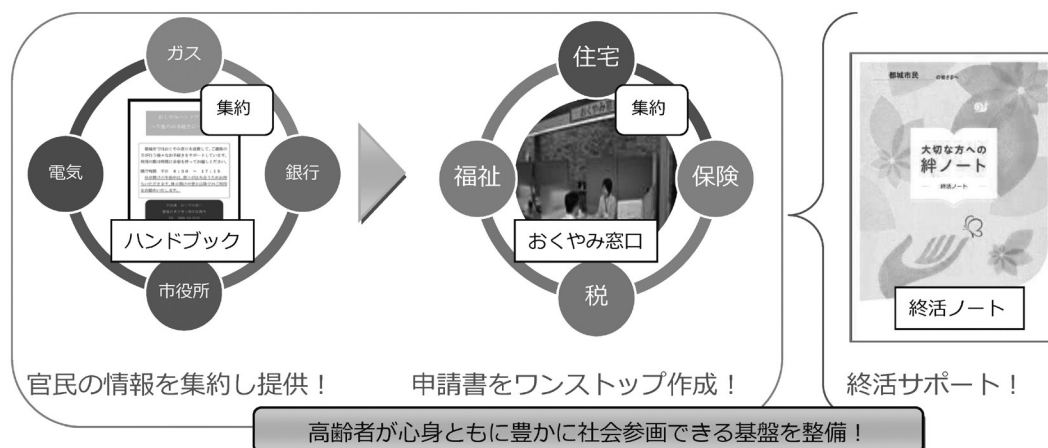
（取組②）おくやみ窓口における資格確認でのRPA活用
RPAを活用して、故人の情報をおくやみ窓口で簡易かつ迅速に確認できる仕組みを構築。

（取組③）官民連携したおくやみハンドブックの作製
また、おくやみ窓口にいらっしゃる前段として、死亡届を出された際に、葬儀社を通じて遺族にお渡ししていた説明資料を、おくやみハンドブックとして全面リニューアル。官民の壁を超え、ガス、電気、銀行、携帯会社等の様々な主体の協力を得て、主要な死亡に関する手続きを網羅した内容となっている。

（取組④）企業と連携した終活ノートの作製
おくやみ窓口運用後に、おくやみ窓口利用者の15%が生前の相談であることに着目。また、遺族からも、「葬儀の希望を聞いておらず大変だった」等の声を聞いていたことから、人生の終末期を迎える死に備えて自身の希望を書き留めておく終活ノートを、本市と包括連携協定を締結している第一生命保険株式会社との協働によりゼロ予算で作製。著作権に係る契約を結べば、他自治体も無償で使って頂ける。

（取組⑤）終活ノート記入に関するサポート体制の構築
終活ノートについては、内容に関するお問い合わせも多いことが予想されたため、第一生命保険株式会社宮崎支社に配置されている、相続コンサルタントに相談いただける体制を構築した。ノートの考え方や書き方について、市民に説明する出前講座も開講する予定。

参考図表



優秀賞 地域再生賞

妖怪美術館と折り鶴アートによる古民家再生で
「迷路のまち」を“まち磨き”

～オリーブの恵みから新たな観光資源創出で持続可能な地域創生へ～



小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM

小豆島・迷路のまち妖怪プロジェクト実行委員会 小豆島ヘルシーランド株式会社

発表者：小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM 代表 佐藤 秀司 氏（リモート発表）

取り組み概要

オリーブの6次産業を超えた取り組みを基に「心と体の健康を追求し、小豆島の発展に寄与する」社是のもと、過疎化が進む島のかつての旧商店街「迷路のまち」の古民家再生に取り組み、「妖怪」や「折り鶴」といった日本文化をテーマとした芸術・観光事業によって地域の持続可能な課題解決に取り組むものである。

成熟社会において、文化芸術は人生における重要な要素である。この文化芸術の分野において、瀬戸内・小豆島から日本人の「文化遺伝子」を世界に向けて発信しているのが、小豆島・迷路のまちにある「妖怪美術館」や折り鶴アートの「naoki onogawa museum」である。VR やスマホアプリなど新しいテクノロジーを駆使したコンテンツは外国人からも人気を呼び、瀬戸内や小豆島の観光振興に寄与している。

小豆島・迷路のまちアートプロジェクト MeiPAM は、この美術館事業を中心として、2011 年から9 年間にわたり古いものを活かしながら新しい価値を生み出してきた。「まち磨き」の取り組みである。この取り組みによって、観光客がほとんどいなかった「迷路のまち」に年間10 万人が訪れ、小豆島を代表するスポットにまで育て上げることができた。

日本文化は「神と人間の関係において円環的かつ可逆的である」(谷川健一「神・人間・動物」(講談社学術文庫))といわれ、一神教世界の西洋文化と対比することができるが、古事記や日本書紀にも著されたような八百万の神やアニミズムをベースとした精神性は現代の日本人にまで受け継がれている。さらに、大災害時、お互いに助け合う日本人の平和的な態度に世界から注目を集めており、こうした国民性は長い歴史のなかで培われてきたものであるが、この特徴を顕在化させているのが、「妖怪」や「折り鶴」をテーマとした芸術作品である。これらが象徴するものは、多神教文化を背景とする「寛容性」である。これは日本が成熟した社会であるからこそ、生まれ得る営みであるということができ、これらの作品を鑑賞することで、日本人の寛容性や独特の精神性を知ることができるのである。

平和と繁栄(と健康)の象徴である「オリーブ」の恵みが日本独自の文化芸術の発信を促し、地域の発展を促進する持続性のある取り組みとなっている。こうした好循環がオリーブ事業に還っていくという持続可能性をもたらしている。さらなる将来像として、「百年常若」(ひやくねんとこわか)をスローガンとした「人生百年時代」に対応した健康促進のシステム構築を進めている。それは、オリーブの恵みを活かしたサプリメント開発に始まり、これを医薬品へと進化させることで、オリーブのある健康生活を届けるヒト、モノ、コト、サービスを一体化させ、世界展開を図るものである。

参考図表



高校生・大学生と創る「お身代わり仏像」Project ～未来に伝える 和歌山の文化財～



和歌山県

発表者：和歌山県立博物館 主任学芸員 大河内 智之 氏

取り組み概要

【背景・課題】

1. 指定文化財・未指定文化財を問わず仏像の盗難が続く

⇒平成20年以降、県内では約280件が盗難被害に

2. 少子高齢化・過疎化の進展により地域での仏像の維持・管理が困難に

⇒地域で寺社を管理している場合、管理者の減少・高齢化が深刻に

【取組】

- ・ 県立和歌山工業高校の生徒が、3Dプリンターを活用して仏像レプリカを造形
- ・ 和歌山大学教育学部の美術専攻の学生が、実物を基に、仏像レプリカに着色し再現
- ・ 実物は県立博物館で保管し、レプリカを「お身代わり仏像」として地域のお寺に奉納
(実績) 平成24年度～ 15件 29体
- ・ 県立盲学校と連携し、点字や触図を通常の印刷に重ねた「触れる図録」を作成し、複製したレプリカとともに、触って楽しむことのできる展示物として活用

参考図表



高校生による仏像の計測作業



計測した3Dデータの修正作業



3Dプリンターにより出力



大学生による着色作業



実物(左)とお身代わり仏像(右)



製作にたずさわった高校生と大学生が現地を訪れ
3Dプリンター製のお身代わり仏像を奉納



さわれる文化財レプリカの展示



特殊な印刷によるさわって読む図録

優秀賞 e-ヘルス賞

情報通信を用いた遠隔 ICU による診療支援



株式会社 T-ICU

発表者：代表取締役社長／医師 中西 智之 氏

取り組み概要

1. 取り組みのコンセプト・ビジョン・理念・内容

ICU とは重症患者の診療が行われる場だが、全国の多くの ICU ではその診療の中核を担う集中治療医が不在のまま診療が行われている。遠隔 ICU による診療支援は、集中治療医のいない病院をサポートし、人々の健康を守ることができる。導入は容易でインターネット環境さえあれば医療過疎地でも直ちに導入可能。老若男女問わずその恩恵を受けることができる。

仕組みは、サポートセンターに待機した集中治療を専門とする医師や看護師が、インターネットを利用して患者の診療情報と検査結果を共有する。そして、それらの情報を元にサポートセンターの医師・看護師から現場の医師・看護師に助言をして診療の支援を実現する。

2. プラチナ社会づくり実現のために

社会的ニーズへの対応：日本は先進国の中でも ICU が少ない国であり、ICU 病床数は米国の 3 分の 1 である。加えて、「集中治療専門医」は全国の医師の中で、わずか 0.5%しかおらず、日本の集中治療はハード・ソフトの両面で大きく不足しているのが現状である。これらは地方ではより顕著であり、超高齢社会と言われる日本では適切な診療を受けられていない高齢な重篤患者が数多くいることが容易に想像できる。

ICU 設備の環境整備は一般的な経済力により比較的容易にできる。一方で、高度な専門性を持つ医療スタッフの育成・確保は非常に困難である。当社ではインターネットを活用することで、全国的に少ない「集中治療専門医」と「集中ケア認定看護師」の知見・助言を遠隔地で展開して、重症患者に対する診療の質の向上を目指している。

創造性・革新性：インターネットを含む情報通信技術の向上により、診療可能なレベルでの画質や音質で情報共有することが可能になった。

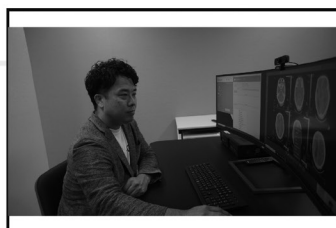
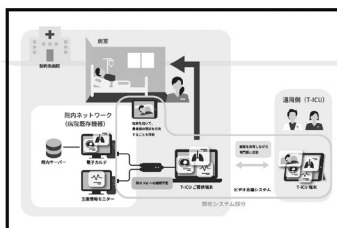
実効性：新型コロナウイルスの感染拡大で国内の重症患者診療における「ICU 不足」と「集中治療医不足」が露呈された。双方を支援できる遠隔 ICU は、現代の重症患者診療のソリューションとなる。同じ状況であったアメリカでは既に 20 年前から実施されており、その普及は医療の改善に寄与した実績がある。

協働の実現性：協力者である集中治療医は主に大学病院や地域中核病院に所属しており、十分な経験と実績がある。このように診療の質を担保してサービスを展開している（2020 年現在）。また遠隔 ICU は個々の病院支援だけでなく自治体と協働して地域内の病院間の連携も高められる。

持続可能性：新型コロナウイルスを契機にリモート技術が加速する中で、遠隔 ICU の持続性は高い。

展開可能性：諸外国の言語や保険制度を考慮しつつ海外に向けた診療支援の展開が可能である。また同様の遠隔診療支援は集中治療以外の他の専門領域への利用も期待できる。

参考図表



たかはま夢・未来塾事業

高浜市(愛知県)

発表者：高浜市こども未来部 部長 木村 忠好 氏
たかはま夢・未来塾 卒塾生 杉浦 光 氏



取り組み概要

【たかはま夢・未来塾とは】

高浜で育つ子どもたちが豊かな経験を積みながら広い世界で活躍できるよう、市内在住の小学4年生から中学3年生を対象にさまざまなプログラムを提供している。

【目的】

子どもたちが、各界で活躍する人々や社会のリアルな事柄との「出会い」をきっかけに、多様な「挑戦」を行う中で、問題解決能力、創造的思考力、コミュニケーション能力を高めるとともに、子どもたちの「夢・未来・志」、「市民意識」、「国際感覚」、「感性」を育てることを目的とする。

【具体的な取り組み内容】

令和2年度は、8つのプログラム（「ロボットクラブ」「発明クラブ」「映画ビデオクラブ」「ディベートクラブ」「英語でアートクラブ」「Learning Games Club」「まんがクラブ」「おもしろサイエンスクラブ」）を開講しており、下記の方針のもと110名の塾生が学んでいる。

① 継続的な学びの場

未来塾で育てたい子どもの像は、1度や2度の単発的な体験の場で養えるものではなく、継続性を持って長期的に学ぶことにより、身についていくものであることから、継続的な学びの場となるようにカリキュラムを考えていく。

② 子どもは誰でも参加できる場

未来塾は、エリートを作る場ではない。いろいろな経験を積むことで結果として、世界にはばたいてくれるといいという想いがある。勉強は、苦手だけれど、ものづくりには興味があるから、そういうことを学びたいという子も含めて、誰でもが興味を持ってきて、参加できるような沢山のメニューを作り、受け入れる体制作りをし、そういう場を提供していく。

③ 地域の教育力を育てる場

世界で活躍する人に育ってほしいとか、親としてこんな風に育ってほしいとか、学校としてこんな子ども、大人になってほしいと思っても、親も自分ではできないのが現状。その結果、親は学校に頼む。学校は、地域に頼む。といったことになってしまう。そういう穴を埋めていくのが未来塾の役割になる。未来塾に地域が関わることから、また、未来塾の経験を地域に還元することから、結果として、地域の教育力を向上させることができると考える。

【取り組みの効果の広がり】

卒塾生の中にはロボットクラブで学び興味をもち、プログラミング知識を就職時に活用し、現在エンジニアとして働いている方など、市内を飛び越えて活躍している姿がうかがえる。

また、直近の先輩である卒塾生の活躍は現役塾生への刺激・憧れに変わり、さらに活動を洗練するきっかけにつながっていること等から循環型教育を果たすことができている。

参考図表



←たかはま夢・未来塾ロボットクラブに参加している塾生が「ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山大会」に出場し、3入賞を果たした様子。

優秀賞 次世代社会づくり賞

水素社会の実現に向けた川崎水素戦略
～川崎が水素で世界を変える～

川崎市 (神奈川県)
川崎臨海部水素ネットワーク協議会
発表者：川崎市長 福田 紀彦 氏



取り組み概要

■ 背景

川崎臨海部は京浜工業地帯の一角として大きな発展を遂げた反面、深刻な環境問題が発生したが、市民・企業・行政が一体となって課題解決に取り組み、高度な環境技術が集積する、産業と環境が調和するエリアとなっている。このように、環境問題における課題解決先進都市である当市の臨海部において、多様な産業集積や、石油精製や製鉄等での日常的な水素の利用、民間事業者によって敷設された水素パイプラインといった強みを活かし、環境と産業の調和を更に推し進めるべく、平成25年に有識者や立地企業等とともに「川崎臨海部水素ネットワーク協議会」を設立、平成27年には「川崎水素戦略」を策定、水素エネルギーの積極的な導入と利活用による「未来型環境・産業都市」と水素社会の実現を目指し、多様な主体と連携した取り組みを進めている。

■ 取り組み内容と今後の方向性

川崎水素戦略では、大きく3つの戦略、「水素供給システムの構築」、「多分野にわたる水素利用の拡大」、「社会認知度の向上」を掲げ、川崎臨海部水素ネットワーク協議会や他の関係企業・自治体等と連携を図りながら、世界初の国際間輸送による水素混焼発電を開始した「水素サプライチェーン構築モデル」など、戦略を先導するリーディングプロジェクトを現在8件創出し、推進している。今後については、既存プロジェクトを発展させながら、より社会実装・商用化に近い「事業モデル」の創出につなげていき、他都市や海外への展開も含め、水素の利用拡大を図っていく。

昨今、世界各国の国家水素戦略の策定やSDGs、新型コロナウイルス感染症への対応を契機とするESG投資の一層の推進、脱炭素化に向けた潮流など、水素の利活用に関連する取組や水素社会実現の必要性がますます高まっている。一方で、水素の価格や、大量輸送・供給の方法、用途の拡大など、全国的な課題が山積しており、一朝一夕に解決するものではないが、川崎臨海部が先行して課題解決に取り組み、「水素を活用したクリーンなエネルギーが利用できる地域」となっていくことで、全国的な水素利用を拡大し、水素が当たり前のエネルギー源になる水素社会の実現、ひいては世界の脱炭素化や持続的発展に貢献していく。

参考図表

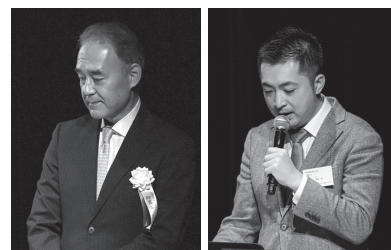
現在の8つのリーディングプロジェクト一覧

| | | | |
|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <p>① 水素サプライチェーン構築モデル</p> <p>A-HEAD</p> | <p>② 水素BCPモデル</p> <p>TOSHIBA</p> | <p>③ 鉄道駅におけるCO2フリー水素活用モデル</p> <p>JR</p> | <p>④ 地域循環型水素地産地消モデル</p> <p>SHOWA DENKO</p> |
| <p>⑤ 燃料電池フォークリフト導入・クリーン水素活用モデル</p> <p>TOYOTA Iwatani TOSHIBA</p> | <p>⑥ パッケージ型水素ステーションモデル</p> <p>三三重工株式会社</p> | <p>⑦ CO2フリー水素充填・フォークリフト活用モデル</p> <p>大層日産</p> | <p>⑧ 燃料電池鉄道車両実用化モデル</p> <p>JR</p> |

日本の明るい未来をつくるために、
建設業界における先進的な取り組み
～『先進的環境配慮型作業所』『環境配慮型施工』
『働き方改革』の標準化を目指して～

大成建設株式会社

発表者：環境本部 部長 御器谷 良一 氏 環境本部 主任 豊村 裕 氏



取り組み概要

建設工事における工事期間中の、『環境配慮』、『働き方改革』の将来モデルを示し、今後業界標準化を目指し、普及・展開するための取り組みである。

◆『先進的環境配慮型作業所事務所』の建設

・省エネルギー化に関する取り組み

仮設建築物でありながら、断熱性能の向上や省エネ技術を導入することで標準的な建築物と比べて一次エネルギー消費量を52%～54%削減し、国内で初めて ZEB Ready の認証を取得した。本取り組みは、汎用性の高い機器・資材を組み合わせるだけで実現しており、併せてランニングコストも削減することで将来的な現場事務所のあり方の一つを示し、業界全体での現場事務所の省エネ標準化に寄与する取り組みとなっている。

・ウエルネスに関する取り組み

また仮設事務所でありながら、一般的なオフィスビルと同等以上の執務空間を確保し、シャワー室やパウダーコーナー等アメニティにも配慮した快適な職場環境を実現した。自然なコミュニケーションが生まれるよう、ガラス張りの開放的な吹き抜け空間とした「サンルーム」や「魅力的な屋外空間」などを設け、だれもが働きやすい作業所事務所とし、ウエルネスの面からも将来目指すべき現場事務所を実現した。

◆工事の施工段階における環境配慮型施工

工事の施工段階においても、重機の電動化や太陽光発電パネルの設置による創エネなど、現場内での CO2 削減を実施する環境配慮型施工にも積極的に取り組み、業界全体への普及の推進を図っている。

◆工事現場における『働き方改革』を実現する取り組み

全作業所社員に対するタブレット端末の導入やインタラクティブホワイトボード等の ICT 機器導入を推進することで大幅に業務を効率化し、社員・作業員の残業時間の短縮を図っている。また、社員に限らず作業員も含めた女性のための専用休憩所やトイレなどの環境整備を行い、女性にも働きやすい職場環境を提供している。

これまで、建設の目的物ではないあくまで付随する「仮」のものであった作業所事務所や施工現場内に注目して、省 CO2・ウエルネスに対する配慮を実際に具現化することで、将来の標準モデルの一つを示し、業界全体でのレベルアップを加速する取り組みを実現した。

参考図表



赤坂中学作業所における BELS 認証



広々としたサンルーム



売店を併設した屋外空間

優秀賞 チャレンジング賞

地球規模のプラチナ社会を実現する「生物×医療」による
世界初のイノベーション 線虫がん検査『N-NOSE®』

株式会社 HIROTSU バイオサイエンス

発表者：取締役/海外事業推進室 室長 山口 慶剛 氏

取り組み概要

●線虫がん検査『N-NOSE』とは

「生物×医療」による世界初のイノベーションで、がんの早期発見を可能にし、地球規模でのプラチナ社会実現に貢献します。『N-NOSE』は、健康寿命を延長し、老若男女が豊かに自己実現を目指せる環境づくりに寄与します。いままで検診率の低かった女性や子どもたちのがんも早期発見し、彼らの現在・未来の輝きを守れる社会を実現します。また、低コストで途上国も含めた実装が可能なため、地球規模でのプラチナ社会づくりに貢献します。

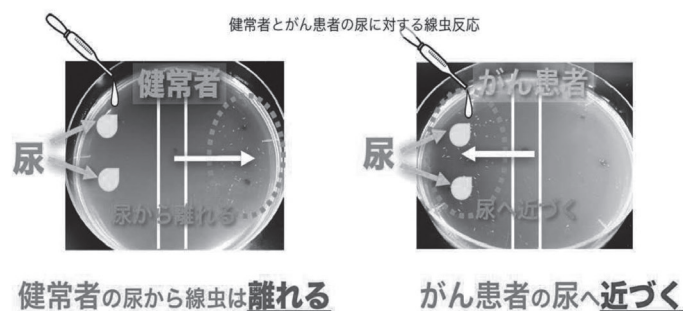
●線虫がん検査『N-NOSE』の画期的な特徴

- ・簡便……検査に必要なのは1滴
- ・高精度……線虫が見分ける感度は86%以上（2019年9月現在）
- ・安価……全身のがんを1度に調べられて9,800円（税別/参考価格）
- ・早期発見……ステージ0、1の早期がんにおいても反応することを臨床研究において確認
- ・苦痛がない……身体的負担がなく定期的に受けやすい
- ・全身網羅的……一度の検査で全身のがんリスクを調べることが出来る（五大がん、膵臓がん等15種のがん）

●プラチナ社会づくりのためのさまざまな側面

- ① 社会的ニーズへの対応：人類のテーマであるがんの克服に前進・健康寿命の延長
- ② 創造性・革新性：異端視された「生物×がん検査」という着想によるイノベーション
- ③ 実効性：医療費削減、がん死による社会損失抑制、治療者のQOL向上、老若男女が社会参加し、豊かに自己実現が目指せる環境づくり
- ④ 協働の実現性：(一社)日本生物診断研究会を設立。企業・健保組合及び自治体とも協働
- ⑤ 持続可能性：莫大な市場における決定的な競争力を持つビジネス、環境負荷、資源の問題は皆無
- ⑥ 展開可能性：検査機関による雇用、経済効果。教育・人財育成活動。検体ビッグデータの可能性

参考図表



南町田グランベリーパーク ～官民連携による“暮らしのグリーンインフラ”の創出～



東急株式会社 町田市 (東京都) 東急電鉄株式会社

発表者：東急株式会社 常務執行役員 高橋 俊之 氏

取り組み概要

◆すべてが公園のようなまち“南町田グランベリーパーク”

南町田グランベリーパークは、東京都町田市の南端にある東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」(2019年10月1日改称)南側の約22haのエリアを指す。

本エリアの再整備は、「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」と冠し、鉄道駅に直結して大規模な都市公園と商業施設が隣り合う本エリアの立地特性を最大限に生かして、行政と鉄道事業者が共同して駅前空間の魅力を再構築することで新しい暮らしの拠点を創出し、人口減少・超高齢化にあっても、郊外住宅地の将来にわたる持続的な発展を果たすことを目的としたものである。

駅を降り立った瞬間から空とみどりをふんだんに感じる「すべてが公園のようなまち」、ここにいるだけでいつの間にか心も身体も健康になる「南町田ならではのパークライフの実現」を掲げ、再度の土地区画整理事業により道路・公園等の都市基盤と宅地の再配置を行うことで、駅からアウトモール型の商業施設を通り抜けて都市公園まで境目を感じることなく歩きまわれるウォーカブルな駅前環境と、「パークライフの基盤」となる“暮らしのグリーンインフラ”を創出した。駅、商業施設、鶴間公園、そしてパークライフ・サイトからなる「南町田グランベリーパーク」は、2019年11月13日に“まちびらき”を迎えた。

◆強力なパートナーシップによる連携・共同・協働

本プロジェクトは、行政と鉄道事業者の二者が連携・共同して拠点整備に取り組んだものである。官・民それぞれの立場で長くこの地でまちづくりに携わって来た者同士が強力に手を組み、いずれか一方に物事を委ねるのではなく、あるいは合同組織化するなどしてすべてを統合化するのでもない、まちのキーパーソン同士が明確かつ対等なパートナーシップを構築してまちづくりに取り組んだ。

まちびらき後の運営においても、プロジェクト段階の実践型市民ワークショップにおいて育ってきたまちのプレーヤーを巻き込みつつ、各施設の運営主体がそれぞれの施設の運営・維持管理の延長線上で連携・協働しながらまちの要素をつなぎ合わせ、まち全体を舞台として積極的に使いこなしていく。町田市と東急は一般財団法人を設立し、まち全体の質や魅力の維持・向上に資する活動に対する資金的な支援を継続していく。

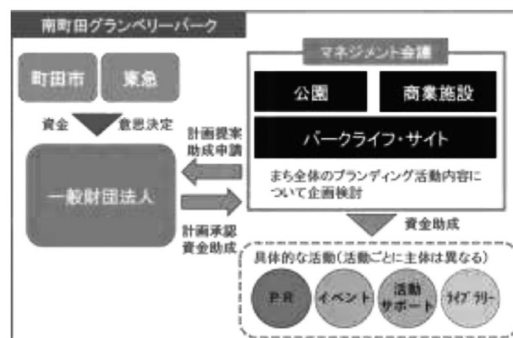
参考図表



すべてが公園のようなまち



実践型市民ワークショップの光景



運営体制スキーム

優秀賞 インクルーシブ賞

「埼玉県方式」による子供の居場所拡大



埼玉県

発表者：福祉部 少子化対策局長 細野 正 氏

取り組み概要

埼玉県では、貧困の連鎖を断つため、子供の居場所づくりに取り組んでいます。

子供たちが歩いて通えることをひとつの目安として、全県で800か所ある小学校区と同じく、子供の居場所が800か所となることを目標にしています。これにより、全ての子供たちを誰ひとり取り残すことなく、安心して暮らせる社会の創出を目指しています。

【ポイント1：こども応援ネットワーク埼玉の運営】

子ども食堂や学習支援教室など、子供の居場所を拡大していくためには、子供の居場所を作りたい人と、これを支援したい企業などを効果的にマッチングすることが何より大切になります。そこで、県では「こども応援ネットワーク埼玉」を立ち上げ、会員となってくださる個人・企業を募集し、ネットワーク化を進めています。このネットワークを通じて、食材の寄附など子供の居場所づくり活動を支援したい企業と団体のマッチングを行っているほか、Facebookでの情報発信を行っています。

現在、こども応援ネットワーク埼玉の会員は408人・企業、Facebookのフォロワーは6,500人を超えるなど県内へ着実に浸透しています。この結果、県内の子どもの居場所の総数は、平成29年8月は76か所でしたが、令和元年8月には323か所に、令和2年2月388か所となるなど、順調に増加しています。

【ポイント2：こどもの居場所づくりアドバイザーの派遣】

県では、子ども食堂などの子供の居場所づくりを行いたい方に対し、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーには、子ども食堂を既実践されている方や、広報、衛生管理の専門家、さらには税理士、弁護士など様々な分野の経験、知識、ノウハウをお持ちの方をお願いしています。

アドバイザーには41の団体・個人の方を任命しております。訪問支援によるアドバイスの実施のほか、現場実習を経て、開設していただくのが標準的なモデルです。令和元年度は、訪問支援を210回、現場実習を124回実施し、45件の子供の居場所の立ち上げにつなげました。

参考図表

○フェイスブックページ（＝プラットフォーム）
「こども応援ネットワーク埼玉」立ち上げ

約6,500名の読者

2018.6.1～ 埼玉県公式フェイスブック、
facebook はじめました。

H30.6 立ち上げ
H31.4 3,472名
R1.4 6,527名

- ・全国のニュース
- ・県内のニュース
- ・支援情報
- ・取組事例
- ・マッチング情報
毎日配信

こども応援ネットワーク埼玉

こどもの居場所づくりアドバイザー

課題

こどもの居場所づくりアドバイザーとは

子供の居場所づくりに取り組みたいが、ボランティアや食材の確保などのノウハウがなく、運営に不安がある

居場所づくりの実践者や専門家が、立ち上げや運営、地域とのネットワークづくりなどのノウハウを提供

特徴

1 多彩なアドバイザーをラインナップ

- ・子ども食堂などの居場所づくりの実践者
- ・弁護士や税理士、福祉制度、食品衛生、ITなど各分野の専門家

2 依頼者の思いを尊重したサポート

- ・直接訪問してアドバイス
- ・現場実習での実践ノウハウ習得
- ・再訪問による継続的なフォローアップ

41の個人・団体

R1.5.16 任命式にて

冬の寒さを利用して 人と環境に優しい持続可能な農業を実現

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
きたみらい農業協同組合 十勝農業協同組合連合会

発表者：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事 勝田 眞澄 氏



取り組み概要

- 近年の気候変動で初冬の積雪量が増加し、雪の断熱効果により土壌の凍結深は浅くなる傾向にあり、これに伴って取り残したバレイショの子イモが雑草化する「野良イモ」が顕在化(図1)。
- 野良イモは、輪作体系における他作物を生産する上で、競合等により悪影響を及ぼすため、夏の農繁期にかけて人手による駆除作業が必要(図2)。
- 冬の「寒さ」を利用して野良イモを駆除するため、圃場内を除雪して地面を露出させる「雪割り」(図3)や、積雪を押しつぶして熱の通りを良くする「雪踏み」(図4)により、土壌を最適な深さまで凍結させる「土壌凍結深制御手法」を誰でも実施できるシステムとして開発。
- 冬の農閑期に短時間の機械作業を行うことで、野良イモの発生を95%以上抑制可能(図5)。野良イモの除去にかかる作業時間を数十時間/ha から1～数時間/ha に大幅に省力化。
- 省力化による人件費削減効果、輪作体系における収量増加などの効果を合わせると、農家1経営体当たり100万円～200万円程度の増益、道東全体では年間数億～10億円以上の経済効果が期待。
- 道東地方の広域をカバーする農協グループの情報システムを通じて広く普及。雪割りや雪踏みによる土壌凍結深制御の実施面積は約8,900haに達し、現在も普及が拡大。

参考図表

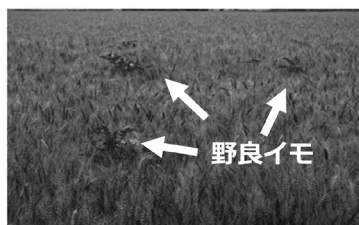


図1翌年の小麦の中に出てきた野良イモ(矢印)



図3 雪割り(圃場内除雪)



図4 雪踏み(圧雪)



図2 野良イモの抜き取り作業

農繁期である春～夏に手作業で行っている重労働

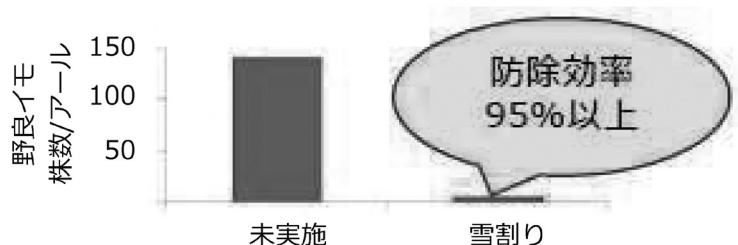


図5 「雪割り」による野良イモ防除効果

プラチナ社会

冬の寒さを利用して人と環境に優しい持続可能な農業を実現

優秀賞 統合的地域づくり賞

「だれもが生涯活躍・環境と調和したビジネス展開」プロジェクト
～イノベーションでスマートタウンを目指すまち かみしほろ～



上士幌町 (北海道)
株式会社生涯活躍のまち かみしほろ 株式会社Karch

発表者：上士幌町長 竹中 貢 氏

取り組み概要

【背景】

少子高齢化や人口流出による地域経済社会の衰退を防ぐため、次の取組を実施。

- 子育て・教育の充実（保育・幼稚園無料、通園補助、高校生まで医療費無料等）
- 交流・移住・定住施策の推進（首都圏における暮らし相談、ふるさと納税者との交流会等）
- 住まいの確保（賃貸住宅建設費補助制度による民間新築住宅の供給増）
- しごとの確保（無料職業紹介、農業生産法人の規模拡大などによる仕事の確保）

【取組】

2つのパートナーと連携し、「だれもが生涯活躍できるまちづくり」と「地域が稼ぐ力の発揮・地域経営」の両輪でまちづくりを推進。

○「株式会社生涯活躍のまち かみしほろ」

- ・地域包括ケアの充実、人材センターと生業の開発、起業支援、健康づくり、人材育成かみしほろ塾

○「株式会社 Karch (カーチ)」

- ・DMO 旅行商品開発、地場産品の商品開発、ナイトイテラス・道の駅の運営、電力小売業等

【目指すもの】

○次世代高度技術の実装によるスマートタウンの実現

- ・産業、生活等様々なシーンに実装し、生産性、利便性の向上、新たな日常、生涯活躍を後押し。

○人の都市・地方循環による地域活性化

- ・都市部の企業人との関係性構築により、地元住民との交流や新たなビジネス展開を目指す。

○環境と調和したエネルギーの地産地消とビジネス展開

- ・バイオガスプラントを核とした資源循環型農業と自然エネルギー売電と停電のないまちを目指す。

参考図表



| 特別講演

ポストコロナとプラチナ社会



プラチナ構想ネットワーク 会長 小宮山 宏

今、人類の歴史的な転換期を迎えています。このパンデミックも一つの表れです。人の往来が自由になり、中国から新型コロナウイルスが一気に広がりました。本日はウィズコロナ、アフターコロナが、プラチナ社会であることをお話させていただきます。

現在、多くの国で第2波が起きています。こちらをご覧ください。これは第1波のときの各国の状況を表にしたものです。一番左側の列は100万人当たりの死亡者数、その右の列は致死率、その右が100万人当たりの感染者数になります。一番右側の列はPCR検査数です。他の国と比べて日本の検査数が非常に少ないことがよく分かります。

左側の表がアジアで、右側が欧米・南米になります。2つの表を比べて大きく違う点は、死亡者数です。2桁違います。コロナが怖いというのは、ヨーロッパでたくさんの方が亡くなったことです。第1波の死亡者数については、アジアの中では日本は非常に多い。フィリピンに次いで多いというような状況でした。

もう一つ重要なポイントは致死率です。武漢では約2%の致死率。横浜港のダイヤモンド・プリンセス号では1.8%でしたが、欧米のデータを見ていただくとベルギー、イギリス、イタリア、スウェーデン、フランスは十数%亡くなっています。致死率15%ということは、コロナに罹ると6人に1人が死ぬということです。それからシンガポールですが、シンガポールはたくさんの方が罹ったのですが、致死率0.07%。10,000人で7人しか死なないということで、致死率は分布しているのです。致死率の高いヨーロッパについて、いろいろ話を伺ってみると、医療崩壊、病院のクラスター化、社会崩壊があります。新型コロナウイルスの致死率というのは、社会崩壊や医療崩壊の影響が非常に大きいです。

こちらは各国の新規感染者数の棒グラフと死亡者数の折れ線グラフです。今は第2波が始まっていて、どこの国でも第1波よりたくさんの方が感染してるわけですが、死亡者数を見てください。ほとんど亡くなっていないのです。第2波は第1波のときとは状況が違うのです。グラフを見ているといろいろ分かります。

先程のシンガポールでは致死率がなぜ低いのか。これは年齢に関係しています。シンガポールの罹患者は、海外から来た生活環境の悪い労働者で、多くの方が感染したわけですが、シンガポールの医療体制が整っているから罹った方が亡くなってない。これは日本の年代別感染者数、

死亡者数のデータですが、どこの国も大体このような感じなんです。要するに60歳以下の人はほとんど亡くなってないのです。だから、シンガポールでは、海外からの労働者、若い人が感染しても医療崩壊さえ起きなければ亡くならない。これと同じような国でいうとカタール、UAE、中東諸国です。若い世代が多い国というのは致死率が低くなっています。

世界を俯瞰して何が分かったかという、少なくとも今までのところ、ファクターXという日本の特殊性を考えるべきデータは、統計的には出ていないというのが一つです。それからガバナンスのよい小国家。ルクセンブルクです。死亡率の高いベルギーやフランスと隣接していて、感染者は同じように出ているのですが、死亡率は第1波でも1.5%程度。それからアイスランドの死亡率は0.6%です。小さな国でガバナンスのいいところは、非常に善戦してるということが言えます。コロナの本質的な致死率は低い。現役世代は大体が大丈夫だと言えらると思います。

日本は非常にPCR検査が少ないですから、検査をもっと拡充して、高齢者を守り、医療崩壊を起こさないように、病院を徹底的に防護していくべきです。自殺が増えたという話が、昨日の新聞に出てましたよね。これまでのコロナの死亡者数は日本で1,600人くらい。去年インフルエンザの死亡者は3,000人を超えています。油断はできないけれども、少し社会を開いていく努力をすべきだろうと思っています。

日本は明治以降、中央集権で成功してきたところがあって、地方が独自に動くことが少なかったけれども、コロナでは、いくつかの自治体で独自の対策、取り組みというのが出てきています。和歌山県は非常にうまくやりました。その他にも世田谷モデルがあります。こうした独自の動き、これはまさに自律分散協調系。自律して、部分的に動き、全体としての協調は図っていくということ。プラチナでは自律分散協調系というのを常に言い続けています。地方は自分たちのことを自分でよく考え、自分で判断して前に進むというのが、プラチナの基本方針です。まさに、そういう意味で、アフターコロナはプラチナだということです。

新型コロナウイルスによる人の流れ、社会の変化が見られます。在宅勤務を増やすとか、副業、オンライン診療を認めるというような、さまざまな変化があります。これは人の自己実現を助けるもので、これはプラチナ社会であります。プラチナ社会のポイントというのは、再生可能エネル

ギー、地球環境、自己実現など、ここにビジネスを作って成長しようというのがプラチナ社会です。もう一つは自然共生社会です。川崎市の例でも、工場の煙で霞んでいた空が今は青空になったというのも、自然共生社会の一つの表れです。林業や農業、水産業の第1次産業についても、ビジネスを作りながら、エコでやっていくというのがプラチナ社会の考え方です。

日本は化石資源を輸入していますが、これは再生可能エネルギーになります。金属資源についても輸入していますが、社会は飽和状態にあり、鉄鉱石や銅は都市鉱山になるのです。日本製鉄が国内で電炉の活用を進めると、先日の読売新聞の1面を飾りましたが、これは循環型社会の象徴的な事例です。化石資源や金属資源といった地下資源は要らない、再生可能エネルギーによる循環社会になる。これが21世紀の目指すべき姿で、自給国家を目指す、まさにそれがプラチナ社会です。

エネルギー、鉱物資源、食料の循環、自給は地方に生まれるビジネスです。これを計算すると50兆円です。日本のGDPの10%にあたります。50兆円のビジネスが地方に生まれれば、それは地方創生になります。補助金を出しているだけでは駄目です。自分の地域でビジネスを作る。その種がエネルギー、鉱物資源、食料、木材である。地方が活性化すれば、はるかにバランスのいい日本をつくることができます。

もう一つは人間が持続しないと仕方がない。新型コロナも大変だけれども、長期的に重要なのは生活習慣病です。腰痛や糖尿病、認知症です。そういうものにどう対応して

いくか。今、日本で一番いい健康に関するビッグデータが弘前大学にあります。このビッグデータの取り組みは、京都や沖縄、和歌山県に広がっていき、さらにベトナムでもデータを取ろうという話になっています。弘前大学は15年間、青森県民1,000人から、1人当たり3,000項目を測るという健康ビッグデータを集めました。このデータをもとに生活習慣病を高い確率で予測します。糖尿病の予測については相関係数が0.93。相関係数1というのは完璧に予測できるということだから、0.93が極めて高い予測値だと分かるはずですが、この健康ビッグデータにもいろいろなチャンス、方策があると思います。ぜひ、これを会員の皆様に共有し、日本に広めていきたいというふうに考えています。

地方には、いろいろチャンスはあるんだけど人が少ない。「丸の内プラチナ大学」では、逆参勤交代を行っています。参勤交代というのは地方から江戸に来たから、逆参勤交代は地方に行くということ。「丸の内プラチナ大学」の逆参勤交代の参加者が毎年増えてきています。多様性が交ざることが重要。僕らの経験としてポイントは、高校生、大学生を中核にする。そこにシニアや子どもが入るといい形がいいと思います。新型コロナを契機にオンラインが普及していますが、対面とのハイブリッド型が良い。子どもはグループワークもオンラインでできる。新型コロナはプラチナ社会実現へ加速せよというメッセージであります。やはり若い人たちが、希望を持てるような社会を作っていきたいと思っています。一緒にぜひ頑張りましょう。どうもありがとうございました。

「プラチナ大賞受賞団体 取り組みのその後」ご報告

【第6回 ライフデザイン賞】徳島県美波町 ICT等を活用した地域課題解決による 好循環なまちづくり

美波町長 影治 信良 氏
(リモート出演)



美波町は四国の東南部に位置しており、現在人口が6,500人、高齢化率は48%と非常に高くなっています。東京から飛行機で1時間、そこから車で2時間、合計3時間という位置にあります。太平洋に面しており、伊勢エビやアワビなど、海の幸に恵まれた所です。現在、サテライトオフィスの誘致数は20社となっております。

美波町の地域資源については、ブロードバンドの普及率が挙げられます。徳島県はブロードバンド普及率が9割で全国1位。美波町でサテライトオフィスが広がってきたのも、ブロードバンド普及率があるからというふうに考えています。その他にも、1200年の歴史のある寺院やトライアスロンな

どのアウトドア環境、来年にはワールドマスターズゲームズも行われる町です。

そんな非常に自然に恵まれた美波町ではありますけれども、一方で地域課題がたくさんございます。その中でも最も大きいのが災害です。今後30年以内に7割から8割の確率で起こると言われている南海トラフ巨大地震。県下で一番高い津波高は20.9mとの予測があります。超高齢社会を迎えている中で、今後どのように対策を行っていくのかという課題もあります。空き家についても、非常に多くなっており、空き家の利活用、除却というのが課題でもあります。

このような課題を解決するために、美波町で取り組んで

きた一つの取り組みというのが、サテライトオフィスの誘致です。平成24年度からサテライトオフィスの誘致を行い、現在20社になります。サテライトオフィスの誘致で非常に良かったことは、トリプルウインの関係です。美波町に来た企業にとっても、地域の方にとっても、町にとってもいいということで、トリプルウインの関係が生まれたことは、非常に良かったと思っています。その20社の進出企業の業種についてはICTやIoT企業、デザイン、地域のブランディングなど、非常に多種多様にわたっているところであります。

さらに、進出企業の進出動機について聞き取りを行ったところ、「地域環境を活用する企業」と「地域課題をテーマとする企業」に分かれます。近年はビジネスと地域課題を解決するというような企業が、私どものほうに多く来られています。そして、そのような取り組みを2018年の第6回プラチナ大賞に、徳島県と共同で提案させていただいたところ、ライフデザイン賞を受賞させていただきました。改めまして、お礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

ここからは、その受賞後の取り組みについて、お話しします。美波町では、門前町薬王寺という地域がありまして、この門前町付近で、多くの若者の移住が進みました。またそうした方々が古民家や空き家を活用して、飲食店などのサービス業を次々に開業させ、にぎわいのある町が生まれつつあります。これからの美波町をどのような形でブランディングしていくかを考えてきたところであります。にぎやかな過疎のまち、「にぎやかそ」というようなキャッチフレーズをつくりまして、2018年12月に「にぎやかそ宣言」を行いました。

その次の取り組みとしては、中央官庁との連携です。経済産業省の関係団体であります、独立行政法人情報処理推進機構の「地方版IoT推進ラボ」に選定していただき、IoT推進に活動しております。災害初期の通信遮断時にも動作する「止まらない通信網」の整備、災害時だけでなく、平時でも産業への活用や高齢者の見守りにもIoT技術の展開を図っております。こちらは2019年に地方版IoT推進ラボメンバーとして、CEATEC2019へ出展したときの模様です。CEATECは先駆的なIT技術の国際展示会で、この展示会に選出されて、出展・参加させていただいた写真になります。

次は国土交通省との連携です。昨年に国土交通省のスマートシティモデル事業の「重点事業化促進プロジェクト」に選定され、今年、美波町スマートシティコンソーシアムが受託をさせていただきました。現在は平時と災害時を併せた課題解決を目指して、実行計画の策定を行っているところです。

次に教育機関との連携です。県内にある阿南高専の学生たちを進出企業がインターンシップで受け入れまして、高専人財と技術者求人難の企業とのマッチングを行っております。

このような地方創生から生まれた新サービスについてご紹介いたします。これは「FUTURE TECH CLUB」と申しまして、子どもたちが自然体験を通じて、ICTやIoTを利用して、地域課題解決を行うというような活動になります。小さいときからICTやIoTに触れることによって、現在国で進めているプログラミング教育等の一助になればと考えております。

次は空き家の活用です。この写真は少しおしゃれに見えるのではないかと思いますけれども、美波町にサテライトオフィスで来られた「株式会社まめぞうデザイン」が、空き家を活用してカフェやギャラリー、デザイナーズショップを開いており、過疎の町にしては珍しいショップかなというふうに思っております。

次はコワーキングスペース「ミナマリラボ」の設置です。これは美波町にある徳島県水産研究課の3階の空きスペースをお借りして、産官学が協力して、特にIoTの技術を用いながら、水産業の技術開発、産業振興を行っています。

次は、災害時の止まらない通信網整備と併せて、災害時の備えとして健康ポイント制度があります。避難をするときには体力が要りますが、住民は歩いた距離に応じてポイントを獲得する。ポイントは地域で商品やサービスに交換できるというものです。災害という非常時に備えることをさりげなく行えるように思っています。

次は、県内企業との連携であります。最近異常気象による河川の氾濫、集中豪雨等が多くありますが、河川が氾濫しているかどうかは、暴風雨の中、職員が直接確認に行っているのですが、センサーを付けて、増水の状況を把握し、そのデータが災害対策本部に送られるということで、職員を危険にさらすこともなく、データが取れるという取り組みであります。

次も県内企業との連携です。鉄道や道路などの高架の所にアンダーパスがあると思いますが、集中豪雨があると水がたまって通行止めになってしまいます。これについても職員が現場まで確認に行き、バリケードで通行止めを行ってまいりました。これを設置したことにより、冠水をしたときに電源が入り、アンダーパスの浸水を検知できるようになっています。この冠水センサーは待機電力が不要になります。県内企業とは、こうしたことも取り組んでいるところであります。

今年は新型コロナウイルスが非常にまん延した年でして、大学生を含めた学生たちが、オンライン授業を余儀なくされるということで、先ほど紹介した「ミナマリラボ」を無料で開放させていただきました。これから美波町としては、Society5.0の社会を見つめながら、スーパーシティ構想やSDGsの未来都市を目指して、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。これからも美波町は、新しいことに挑戦をしていこうと思っておりますので、皆様方のご指導、ご助言をよろしくお願いを申し上げまして、発表を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございます。

審査委員長 講評

プラチナ大賞
審査委員長

武内 和彦



本日出席の審査委員 9 名を代表しまして、私から審査経過、ならびに結果を申し上げます。

14 団体の発表を聞かせていただきました。発表者の皆様、大変お疲れさまでした。14 団体の内容は、いずれも素晴らしいもので、甲乙付け難い取り組みでございました。プラチナ社会の実現にあたり、社会的なニーズ、創造性、革新性、実効性、さらには今後の発展可能性といったさまざまな観点から拝見しました。

大賞・総務大臣賞には、神奈川県「新型コロナウイルス対策に係る『LINE コロナお知らせシステム』『新型コロナ対策パーソナルサポート』『感染防止対策取組書』等を組み合わせた仕組について」が大賞にふさわしいと決定しました。自治体が LINE を用いた新型コロナウイルスの対策を打ち出しているという点が新しく、またコロナが発生する以前の 2018 年に、既に LINE 社と協定を結び、全国に先駆けた取り組みであり、今や全国に普及しているという点は大変素晴らしく、高く評価させていただきました。神奈川県は、先のクルーズ船の話もあり、新型コロナウイルスに対する危機感の高まりが生んだサービスではないかと思えます。また、個々人のレベルで情報を集め、それを個々人に還元していくという点でも、画期的な取り組みであります。

大賞・経済産業大臣賞には、Global Mobility Service 株式会社、特別会員 関根秀昭様の「日本発 世界の貧困層・低所得層 17 億人を救う金融包摂型 FinTech サービス」が大賞にふさわしいと決定しました。コロナ禍において、先

進国と開発途上国の格差、それから先進国においては、裕福な層と貧困層との間の格差、これが増えつつあり、世界の皆様方が大変な懸念を表明されているところで、まさにその改善に資する取り組みをされている点を高く評価させていただきました。プラチナ大賞において、海外をフィールドにした取り組みが受賞されるのは初めてのことです。このプラチナ社会の取り組みというのは、日本国内にとどまらず世界に展開することが、これからは重要ではないかと思っております。現在は日本に逆輸入をして、日本の社会の中で、この FinTech サービスを展開されている。これも非常に高く評価されたところでございます。

大賞に選ばれた二つの案件は、いずれもコロナ禍における取り組みが、特筆すべき共通点であったと思えます。

優秀賞の 12 件につきましては、各取り組みの特色を捉えて、審査委員から「地域人財育成賞」「環境配慮賞」「技術革新賞」というように、命名させていただきました。大賞に選ばれた 2 件を含め、本日、14 件の全てが大変素晴らしい取り組みであったと審査員一同、認識を一つにしているところです。今後ともますます、取り組みをさらに発展させていただければと思えます。

プラチナ大賞の趣旨でもあります「プラチナ社会の実現」のためにも、本日の取り組みを日本各地に横展開することが重要になってまいります。本日、YouTube により、ご視聴いただいている皆様方にも、こうした取り組みを今後の参考としていただければと思っております。取り組みがますます発展し、課題先進国である日本が課題解決先進国となるように、審査員一同、願っております。改めまして大賞を受賞しました、神奈川県と Global Mobility Service 株式会社、関根秀昭様、優秀賞を受賞されました 12 団体の皆様方に、心から敬意と感謝を申し上げます。審査委員の講評とさせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

閉会挨拶

プラチナ構想ネットワーク
幹事長

岩沙 弘道



本日はお忙しい中、長時間にわたり、第8回プラチナ大賞最終審査発表会・表彰式にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

古川総務大臣政務官、佐藤経済産業大臣政務官におかれましては、公務ご多忙の中、ご来臨を賜りまして、誠にありがとうございます。プラチナ大賞の開催にあたり、温かくご指導いただいておりますこと、本席をお借りして、御礼申し上げます。武内審査委員長をはじめ審査委員の皆様には、各団体のいずれ劣らぬ素晴らしい取り組みを審査していただくという、大変難しいお願いとなりました。大変ご熱心にご審議いただいたと承っております。改めて厚く御礼申し上げます。

大賞・総務大臣賞を受賞された神奈川県、大賞・経済産業大賞を受賞された Global Mobility Service 株式会社の皆様にはお祝いを申し上げます。優秀賞の12団体の皆様方の取り組みにつきましても、大賞に勝るとも劣らない素晴らしい取り組みを発表いただいて、誠にうれしく存じます。皆様の日頃の真摯なご努力に、改めて深甚なる敬意を表します。

今回もこうして全国から選りすぐりの優れた取り組みが、一堂に会したわけですが、くしくもわが

国が抱える社会課題がここに勢ぞろいしたように感じます。環境、健康、医療、少子高齢化、労働力不足問題、格差貧困問題、伝統文化等の継承問題をはじめ、地方圏における農業や観光や教育をどうしていくのか、まさにわが国の縮図を見るような、数々の困難な課題にも、ひるまず臆せず敢然と立ち向かっている姿に感銘を覚えました。いたずらに深刻に構えるのではなく、しなやかに、また伸びやかに、着々と大きな成果を上げられておられており、これこそ、まごうことのない本物の課題解決への取り組みであり、またプラチナ構想ネットワークの目指す姿そのものであると思いました。

今年の特異な状況下での開催ではありますが、昨年までの感動とはまた一味違った手応えを感じました。このような時代において、ピンチは大きなチャンス。ピンチこそが変革を一気に進めるときだと思えます。本日の示唆に富む素晴らしい成果の数々を、当事者、関係者以外の方々にも、今後広く横展開していただきたいと存じます。それぞれの地域や社会の課題に対して、プラチナ社会の実現に向けて、さらに加速、進化していくことを強く願っております。

プラチナ構想ネットワークとは、いうなれば、未来を明るくする取り組みでございます。その明るい未来への思いを共有し、ご支援いただいております会員の皆様、ならびに各関係者の皆様に、本席をお借りいたしまして深く感謝申し上げます。そして、今後もさらなるご理解とご協力をお願いしまして、閉会の言葉とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

資料編

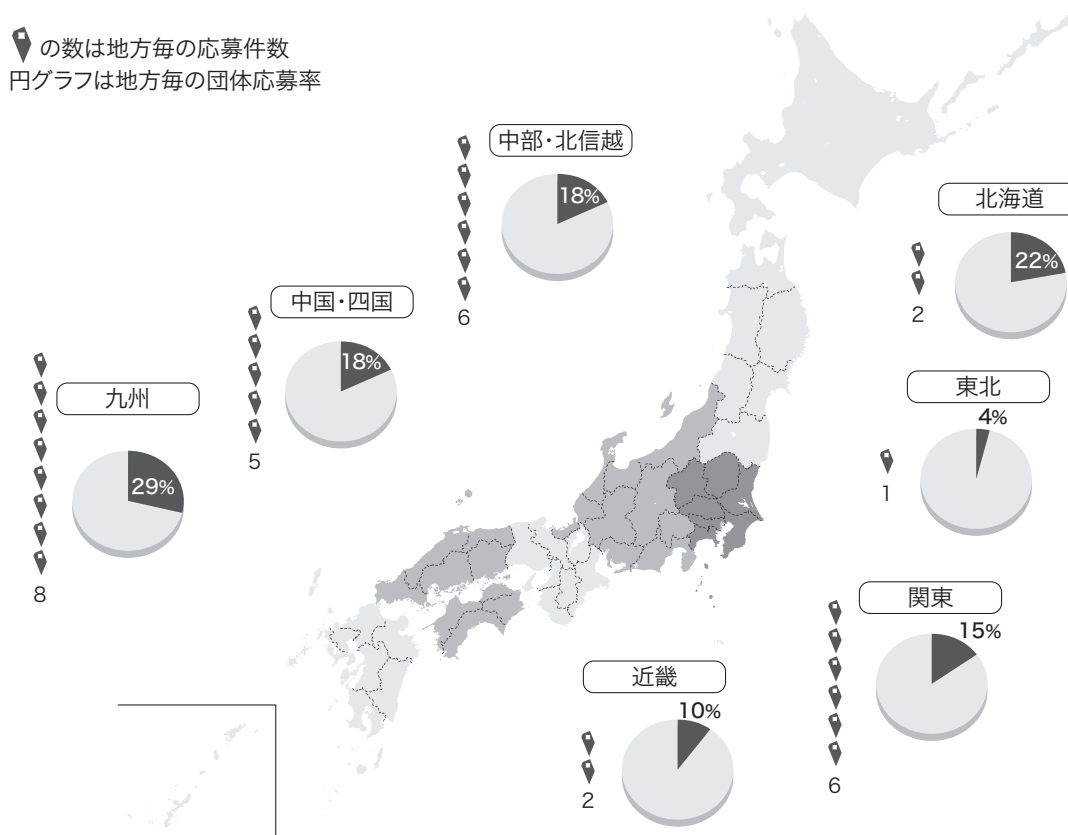
応募団体の全体概要

【団体属性別】

| | | 都道府県 | | 市区町村 | | 法人 | | ベンチャー企業 | | 特別 | | 合計 | |
|-------|-------|------|----|------|-----|-----|----|---------|----|-----|----|-----|-----|
| 応募団体数 | 会員団体数 | 9 | 27 | 21 | 155 | 9 | 77 | 8 | 30 | 7 | 73 | 54 | 362 |
| 団体応募率 | | 33% | | 14% | | 12% | | 27% | | 10% | | 15% | |

(海外会員を除く)

📍の数は地方毎の応募件数
円グラフは地方毎の団体応募率



【地方別】

| | | 北海道 | | 東北 | | 関東 | | 中部・北信越 | | 近畿 | |
|-------|-------|-----|---|----|----|-----|----|--------|----|-----|----|
| 応募団体数 | 会員団体数 | 2 | 9 | 1 | 23 | 6 | 41 | 6 | 33 | 2 | 20 |
| 団体応募率 | | 22% | | 4% | | 15% | | 18% | | 10% | |

| | | 中国・四国 | | 九州 | | 法人 | | ベンチャー企業 | | 特別 | | 合計 | |
|-------|-------|-------|----|-----|----|-----|----|---------|----|-----|----|-----|-----|
| 応募団体数 | 会員団体数 | 5 | 28 | 8 | 28 | 9 | 77 | 8 | 30 | 7 | 73 | 54 | 362 |
| 団体応募率 | | 18% | | 29% | | 12% | | 27% | | 10% | | 15% | |

※会員団体数は2020年7月時点

主なメディアの掲載一覧

テレビ

- フジテレビ「FNN Live News α」(2020年10月22日放送)
- BSフジ「BS プライムニュース」(2020年10月22日放送)
- テレビ和歌山「6waka イブニング ニュース」(2020年10月24日放送)
- KSB 瀬戸内海放送「KSB スーパーJチャンネル」(2020年10月24日放送)
- キャッチネットワーク「KATCH TIME 30」(2020年10月24日放送)

新聞

わかやま新報(2020年10月21日) 建通新聞(2020年10月16日)

文化財と地域の信仰を守る

「お身代わり仏像」最終審査へ

— 第8回プラチナ大賞 —

今回、県が応募し、博物館で保管することになり、文化財を信仰の場を守っている。有田川町の下瀬川観音堂の観音菩薩立像(左が実物、右がレプリカ=県立博物館提供)

イノベーションによる新産業の創出や、AIやロボット技術の活用などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業を取り組みを表彰する「第8回プラチナ大賞」で、県立博物館が和歌山工業高校や和歌山大学と連携し、お身代わり仏像プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

先天的な取り組み、地域で人が育ち、雇用の新産業の創出や、AIやロボット技術の活用などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業を取り組みを表彰する「第8回プラチナ大賞」で、県立博物館が和歌山工業高校や和歌山大学と連携し、お身代わり仏像プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

有田川町の下瀬川観音堂の観音菩薩立像(左が実物、右がレプリカ=県立博物館提供)

「お身代わり仏像」プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

22日にプラチナ大賞発表

大成建設などがエントリー

総務省や経済産業省による先進的な取り組み、地域で人が育ち、雇用の新産業の創出や、AIやロボット技術の活用などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業を取り組みを表彰する「第8回プラチナ大賞」の最終審査会が10月22日(東京都千代田区)に東京都千代田区にある水素社会の実現に向けた川崎水素戦略の取り組み(川崎市と川崎臨海部水素ネットワーク協議会)が共同応募や、「日シオン」が行われる。プラチナ大賞は、エコすまを目的に創設され、高齢者でも参加でき、

先天的な取り組み、地域で人が育ち、雇用の新産業の創出や、AIやロボット技術の活用などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業を取り組みを表彰する「第8回プラチナ大賞」で、県立博物館が和歌山工業高校や和歌山大学と連携し、お身代わり仏像プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

先天的な取り組み、地域で人が育ち、雇用の新産業の創出や、AIやロボット技術の活用などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業を取り組みを表彰する「第8回プラチナ大賞」で、県立博物館が和歌山工業高校や和歌山大学と連携し、お身代わり仏像プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

「お身代わり仏像」プロジェクトが、最終審査会に選出の14社に残った。最終審査は22日に行われ、県内から選ばれる作品に期待が高まっている。

優秀賞に選ばれた上士幌町の取り組み、左から2人目が竹中町長

プラチナ大賞 優秀賞

**優秀賞
— 統合的地域づくり賞 —**

十勝農協連との取り組み
成果を発表する藤田理事

プラチナ構想ネットワークなどの主催。自治体や企業から58件の応募があり、1次審査を通過した14件が最終審査に臨んだ。審査の結果、大賞2件、優秀賞12件が決まった。

上士幌町の竹中町長は「だれもが生涯活躍・環境と調和したヒコス展開プロジェクトについて発表。プラントによるバイオマス発電は自給率100%

「だれもが生涯活躍・環境と調和したヒコス展開プロジェクトについて発表。プラントによるバイオマス発電は自給率100%」を目的としている。

十勝農協連は、農業・食品産業技術総合研究機構などと取り組んだプロジェクトの概要を発表した。十勝

(池合智)

「だれもが生涯活躍・環境と調和したヒコス展開プロジェクトについて発表。プラントによるバイオマス発電は自給率100%」を目的としている。

十勝農協連は、農業・食品産業技術総合研究機構などと取り組んだプロジェクトの概要を発表した。十勝

(池合智)

バイオガス活用 上士幌町 土壌の凍結制御 十勝農協連

【東京】地域課題の解決に取り組む自治体、企業を表彰する「第8回プラチナ大賞」の最終発表会が22日、都内で開かれた。上士幌町のバイオガスプラントを活用した持続可能なまちづくり、十勝農業協同組合連合会ら4団体による「凍結制御の深さを制御する手法開発・普及の取り組みが優秀賞に選ばれた。

「東急」地域課題の解決に取り組む自治体、企業を表彰する「第8回プラチナ大賞」の最終発表会が22日、都内で開かれた。上士幌町のバイオガスプラントを活用した持続可能なまちづくり、十勝農業協同組合連合会ら4団体による「凍結制御の深さを制御する手法開発・普及の取り組みが優秀賞に選ばれた。

プラチナ大賞
人口減少や高齢化、エネルギー問題などの課題を解決して目指す社会を「プラチナ社会」と定義。イノベーションによる新産業創出やアイデアあふれる方策で課題を解決している自治体、企業取り組みを表彰し、普及を目指している。

外観改修後の古民家

東急と東急電鉄、東京都町田市は23日、南町田グランベリーパークが「第40回緑の都市賞」国士交通大臣賞、「第8回プラチナ大賞」新しい時代まちづくり賞を受賞したと発表した。

南町田グランベリーパークは、東急電鉄田園都市線の南町田グランベリーパーク駅側に広がる商業施設跡地と緑間公園を中心とする約22万平方メートルのエリア。官民で都市基盤・商業施設・都市公園・駅などを一体的に再整備・再構築し、自然にきわみが融合した拠点を創出。昨年11月にまちびらきを行った。

緑の都市賞

賞は都市緑化機構主催

プラチナ大賞

プラチナ大賞はプラチナ

緑の都市賞は都市緑化機構主催

プラチナ大賞はプラチナ

「第40回緑の都市賞」国士交通大臣賞、「第8回プラチナ大賞」新しい時代まちづくり賞を受賞したと発表した。

南町田グランベリーパークは、東急電鉄田園都市線の南町田グランベリーパーク駅側に広がる商業施設跡地と緑間公園を中心とする約22万平方メートルのエリア。官民で都市基盤・商業施設・都市公園・駅などを一体的に再整備・再構築し、自然にきわみが融合した拠点を創出。昨年11月にまちびらきを行った。

編集後記

2020年は新型コロナウイルス感染症が感染拡大した年になりましたが、「第8回プラチナ大賞」は例年の応募件数を上回る58件の応募がございました。会場では体温計測やアルコール消毒を徹底するなど、感染症対策に万全を期するとともに、ソーシャルディスタンスを確保するため、来場者は発表団体等に人数制限し開催するに至りました。また、会場の模様をYouTube LIVEにてオンライン配信し、例年以上に多くの方々にご覧いただくことができました。イイノホールの皆様をはじめ、「第8回プラチナ大賞」運営にご協力くださった全ての皆様に、事務局一同深く御礼申し上げます。

次回「第9回プラチナ大賞」開催につきましても、新型コロナウイルス感染症に負けることなく、事務局一同準備を進めてまいりますので、今後とも皆様のご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。(プラチナ大賞運営委員会事務局)

第8回プラチナ大賞 報告書

2021年1月31日 発行

編著 プラチナ大賞運営委員会事務局
(プラチナ構想ネットワーク事務局)



プラチナ
構想ネットワーク

編集・発行 プラチナ大賞運営委員会事務局(プラチナ構想ネットワーク事務局)
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3 TEL. 03-6858-3546 FAX. 03-5204-9563